



SSVP

愛と正義

The Ozanam News

聖ヴィンセンシオ・ア・パウロ会



和歌山愛徳姉妹会・愛徳幼稚園にて（2025年7月）

この小冊子「The Ozanam News」は聖ヴィンセンシオ・ア・パウロ会が、創立者フレデリック・オザナムの精神を生かし、ボランティア活動が続けている状況などを紹介しております。

2025年7月30日発行・通算345号

「The Ozanam News」 編集・発行：聖ヴィンセンシオ・ア・パウロ会 日本全国理事会
〒145-0071 東京都大田区田園調布 3-43-1 カトリック田園調布教会内



全国理事会長の交代について

SSVP 全国理事会会長 中山 正士

✦ 主の平安

例年にもまして今年も異常に暑い夏が続きました。世界的にもこれが普通の夏になるような気がします。そんな中皆さま如何お過ごしでしょうか。

さて先月和歌山協議会の会議室をお借りして全国理事会を開催しました。現地まで来られない会員のために Zoom を利用してのネット会議も一緒にしました。スケジュールも実質半日くらいしか取れなかったのですが、その中で全国理事会会長の交代がありました。

私が田園調布教会協議会の前全国理事会会長の中屋柚生子さんから、引き継いだのは 20 年余り前のことになります。私が大学を卒業して会社勤めを始めてから間もなく教会にあった SSVP 協議会会長に誘われて入会したのですが、当時近隣の教会にも同じく SSVP 協議会があり、若い会員を中心に盛んに活動をしていました。当時は福祉活動をする会が教会にはなく、SSVP が中心になり活動をしていました。当時のことを思い出してもいろんなことをしていたと思います。活動資金獲得のための募金活動もしたりしていました。同じ仲間との活動はとても楽しかった時代だったように思います。私も従事していた原子力発電所の仕事が忙しく出張も多くありまして、そんなに長く全国理の会長職にとどまるとは思ってもいませんでした。

全国大会も、3 年毎に実施していました。長崎、京都、大阪、仙台、名古屋などで開催しました。多くの会員の皆さま方、またヴィンセンシアン・ファミリーの皆さま方に支えられてのものだったと思います。それにはとても感謝しております。またとても楽しい集いだったと思っています。

ただ時とともに、会員の高齢化による減少、協議会の消滅などもあり活動自体の縮小とかもありまして、新しい会員の獲得は難しいことでした。その後、次の会長に橋渡しをと考えていたのですが、なかなか筋書き通りにはいきませんでした。その点は大変申し訳なく思います。

この度マレーシアでのアジアグループの会長会議をきっかけとして、仙台協議会の佐藤会長に引き継ぐことが出来てホッとしています。

カトリック教会内の信徒使途職の SSVP として、今後どういう風に活動を継続していったらいいかなと私なりに考えていますが、新しい全国理事会会長のもとでまた発展していければと思っています。私もこれからの SSVP のためにどのくらい貢献できるかわかりませんが、自分なりに協力していこうと思います。カトリック教会内にも SSVP 以外にもいろいろなボランティア活動があるでしょうし、福祉施設などへの支援者も増えているのはありがたいことと思います。

長いあいだの SSVP 会員のサポートに感謝いたします。ありがとうございました。



全国理事会会長新任の挨拶

仙台協議会会長 佐藤 恭二

この度前全国理事会会長の中山会長より引継ぎました佐藤恭二です。現時点では仙台協議会会長ですが全国理事会会長を引き継ぐにあたって SSVP 規約上全国の中央理事会・全会長の互選により選ぶべきところ、現在の 5 つの中央理事会主催である全国理事会の運営が十分に機能していない中、2025 年 6 月に和歌山協議会のある会議室をお借りして、役員および数名の中央理事会会長出席のもと、全国理事会にて会長に選出され、7 月 1 日より任に着く事となりました。

一旦引き受けたからには、会員の皆様からのご支援なく活動することが出来ないと肝に銘じております。前述の如く日本国内の SSVP は十分な連帯機能を果たしておらず、今後全国理事会各会員とのコミュニケーションを深めながら、新たな組織のリストラクチャリング・再構築をしていかなければと考えております。

SSVP と教会（司祭、司教）とのかかわり方、また社会情勢の変化による隠れたる被支援者（被災者および要支援者）とのかかわり方をさらに積極的に進めていこうと考えております。またカトリック信徒および支援者が、活動支援団体とのコラボしやすい SSVP となるように、会員の皆様のご支援によって努めていきたいと思っています。

全国理事会開催について

別途議事録でもお送りしましたが、下記で開催しました。

開催日時：2025年6月21日（土）10:00～15:10

場所：和歌山協議会・愛徳医療センター会議室

当日現地に来られない会員のために、Zoomでのネット会議も同時に行いました。ネット環境については和歌山協議会の皆さまにご協力いただきありがとうございました。

当日の議題は、全国理事会からの報告として、2024年度と2025年度の主な活動内容、全国理事会会長の交代。そして各協議会からの報告などでした。時間の余裕がなくて十分話し合い出来なかったのは心残りでした。

協議会からの報告として、和歌山協議会からの報告から能登震災支援のその後の報告もありました。なお長崎中央理事会の山口会長から、長崎でも能登支援の募金をしたので和歌山協議会に送るという話がありました。

佐藤仙台協議会会長から、来月マレーシアで4日間開催されるアジア第3グループの会長セミナー（National Council Presidents' Seminar Asia 2025）の内容についての紹介と会議内容についての疑問点などの話がありました。



なお、この会議で中山会長から、全国理事会の前日に宣教会のロイド神父を訪問した報告がありました。

SSVPの指導司祭として、今まで横浜・山手教会のダリル神父が担当されていましたが、フィリピンに帰国されましたので、現在は磐田/掛川教会のロイド主任司祭が次の指導司祭になりました。ロイド神父の前に山手教会に赴任されていて、山手教会のSSVPも見ていましたので、会の内容については良くご存じでした。



Fr. Roed Desamparado

現在宣教会から日本の担当として、

Fr. Amado Caballero, CM…カトリック垂水教会

Fr. Roed Desamparado, CM…カトリック磐田/掛川教会

Fr. Costancio Consulta, CM…カトリック神戸中央教会

Fr. Cesar Porment, CM…カトリック甲子園教会、

あと、福岡と長崎にもおられます。

宣教会のミッションとして、小教区の管理、移住者の司牧的ケア、キリスト教要理の教育、教区での活動、ヴィンセンシオ・ファミリーとの協力などがあります。



磐田教会



7月14日（月）～17日（木）まで、マレーシア・クアラルンプールで、アジア第3グループ（日本、香港、韓国、台湾、モンゴル、マカオ）の会長会議があり、新しく選ばれた佐藤全国理会長が参加しました。香港の Maurice 総理事会副会長から強い参加要請があったものです。

【National Council President' Seminar】
Asia 2025
＜SSVP・Japan から参加後のレポート＞

SSVP 全国理事会会長 佐藤 恭二

マレーシア・クアラルンプールにて開催された「National Council President' Seminar Asia2025」に参加させて頂いた佐藤恭二（仙台協議会会長）です。

セミナー参加時における講義聴講内容及び各国の活動報告等概略を報告させていただきます。

私は前全国理事会会長中山正士より引継ぎ佐藤恭二が全国理事会会長として参加いたしました。この度のセミナー参加に至る経過は以下の通りです。

全国理事会会長の中山正士氏は数十年にわたり、日本の SSVP を指導されてきました。日本国内における5つの中央理事会及び各地区の協議会等をまとめ上げ、中山会長並びに中屋柚生子会計担当そしてスタッフによる運営をされてきました。

また Asia 3・CGI との密なコミュニケーション等を取り、絆を構築され日本 SSVP の礎を築かれてきました事に於いて会員一同感謝申し上げます。

今年 2025 年6月に和歌山 SSVP にて全国理事会役員の互選により中山正士会長の辞任及び佐藤恭二の全国理事会会長就任を全員一致により承認され、正式には25年7月より発効され、CGI 本部 ITVP(Asia3)に報告致しました。

2025年7月14日から17日に開催された National Council Seminar Asia3 の参加国23か国から SSVP 代表が参加し、SSVP 担当指導司祭3か国から参加、3日間にわたる早朝ミサ（6時30分）から1日が始まり、各司祭からのこのセミナーに対する有効性と各国の指導者が一に集まり SSVP の精神と神への敬愛を確認する事を感謝しようと訴えた説教でした。

会議においては効果的に主導するための必要な知識、スキル、精神的基盤を身に着ける事を目的とした会議で、セミナーのテーマは「希望のためのヴィンセンシアンリーダーズ」この会議においてコーチングとメンタリング、ヴィンセンシアンリーダーシップ育成、CGI、及び地域社会との絆の強化、そして私たちの使命である信仰、慈善と正義であり続けるための役割割りについてより深い理解を得るため、特にリーダーシップの中核的責任改めて認識させ、紹介する事を目的とした会議でした。

会議の最終まとめとして、15日から17日の午前中まで参加各国の活動報告が発表された。次の4点である

- 1・Eradicating poverty in all its forms：あらゆる形態の貧困を撲滅する
- 2・Ensuring healthy lives and promoting well being for all at all ages
あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、幸福を促進する
- 3・Reducing inequalities：不平等の是正
- 4・Making cities and human settlements inclusive, safe resilient and sustainable
都市と人間の居住地を包括的で安全で、回復力があり、持続可能なものにする

以上が会議の趣旨と目的を記載した概略である。

セミナー時に於いての趣旨説明後、各国 SSVP からの現地活動報告の発表が行われました。日本 SSVP へ発表課題は以下の通りです。

＜発表した資料集＞

1：Relationship between SSVP Japan the CGI team：

＜SSVP Japan と CGI チームとの関係性について＞

数年前から CGI（Mauris）氏が二度にわたり日本 SSVP の会員に対して CGI の現在の動向及び活動基準等についてレクチャーがあり、会員とのコミュニケーションにより各協議会担当者との意見交換等を行ってきた。今後も CGI・ITVP(Asia3)の副会長 Maurice 氏を通じて日本との関係性を強化する予定です。

2：Potential for the development of SSVP Japan in the next 3～5years

＜3～5年後を見据えた SSVPJapan の発展の可能性について＞

現在の SSVPJapan は5つの中央理事会によって構成されその傘下に各地における協議会が設置されている。5カ所の中央理事会（横浜・長崎・福岡・大坂・京都）と各協議会との密接な連絡および密接なコミュニケーションを再構築していく事がさらに SSVPJapan の発展に寄与する事だろうと考えております。

3 : Proposal being considered by SSVPJapan regarding support for victims of the Noto Peninsula earthquake

＜能登半島地震の被災者支援に関して SSVPJapan が検討している提案＞

和歌山 SSVP が支援担当となり支援活動資金をモリス氏を通じて CGI から 70 万円もらい支援活動資金としている。被災地の担当教区は名古屋教区で担当地区の金沢教会を起点として支援している。勿論カリタスジャパンも能登半島に拠点を作っており現地被災地を支援活動をしているが残念ながら SSVP との協働体制は築かれておらず、東日本大震災時における支援活動のように人的及び現地情報等のコミュニケーションをとることが出来ていないのが実情である。和歌山 SSVP 会員は毎月輪島教会と幼稚園を主体的に支援活動を行っており今後も資金が続く限り継続の予定である。

※以上が日本 SSVP の現状報告です。

各国の支援活動を3日間にわたりパワーポイントにて発表されたのを見ると、東南アジア諸国の庶民の経済状況及び酷いインフラの不備の中で、地震並びに洪水等の被災に対して SSVP 会員並びに被災者への庶民からの支援が支えていることが感動的であったし、大勢の貧しい庶民ボランティアと一緒に SSVP 会員が活動している姿は日本でも学ばなければならないと心底思う時間であった。

会議での参加国のスタッフとのコミュニケーションにより個人的な繋がりを持つことが出来、それだけではなく今後各国との Twinning によるコミュニケーションを取ることも考えられるのではないかと E メールの交換が行われ必要であれば情報交換も可能となり今後の検討課題としたい。

各国の活報告をここに上げる事は紙面上無理なので割愛することとした。ご覧になりたい方には私・佐藤に連絡して頂ければデーターをお送りいたします。

以上簡単に概略を記しましたが、御意見等ありましたら遠慮なくお知らせ頂きたいです。

(1・8:25)



会員の活動から



能登・輪島「海の星幼稚園」前園長先生の講演会

能登半島震災後に輪島市にある「海の星幼稚園」への支援を和歌山協議会で続けていますが、和歌山協議会の招きで、前園長の前江田恒子さんをお呼びして、「愛徳幼稚園」で講演会を開催しました。愛徳姉妹会の幼稚園と関連する地元のいくつかの幼稚園の先生方と一緒に震災当時の話をさせていただく機会を作りました。

7月19日（土）の午後、「愛徳幼稚園」の講堂に、同じグループのいくつかの幼稚園・保育園の先生方が集まりました。前江田さんは、園長として震災が起きた時の状況、

インフラが復旧するまでの

こと、園児のこと、それとボランティアの皆さんにとっても協力していただいていた感謝していることなどを、パワーポイントを使用されて説明されていました。震災が起きた時のマニュアル作りをして新しい園長さんに引き継いだとも話していました。またこの講演を聞きに来られた、先生方も震災が起きたときにどうするか話し合った内容を紹介していました。30年以内に起こるだろうという南海大地震を前提にして、子供たちをいかに守るかについて真剣に話し合っていました。





左から、前江田前園長さん、南部さん、
前江田さんのご主人

能登半島震災支援について (Part-3)

全国理会長 中山 正士

先月号でも報告していますが、全国理事会でもその後の状況について南部さんから説明がありました。概略は下記。

- 能登半島地域には3つのカトリック教会があります。
七尾市 カトリック七尾教会…幼稚園併設
羽咋市 カトリック羽咋教会
輪島市 カトリック輪島教会…「海の星」幼稚園が併設されています。
現在はこの幼稚園を支援しています。
- 名古屋司教区（松浦五郎司教）
金沢教会 神父2名 能登地方の教会を巡回している。
七尾、輪島には幼稚園が併設しているため職員が教会の設備や管理を担ってくれている。
教会自体は、高齢化が著しく教会の維持もできない状態の中で起きた震災となる。
- 被災地の支援二一ズ
昨年7月上旬に仮設住宅への引っ越し作業、がれきの除去、復旧後の設備補修を実施。現在は、仮設住宅への引っ越し作業の手伝い、がれきの除去、生活の再建への支援をしている。
仮設住宅への入居は開始されたが、まだ一部は避難生活継続中。
- 3月25日に「海の星」幼稚園の卒園式がありました。前江田園長さんから卒業証書を渡されました。



石川 輪島の幼稚園 市外に避難の園児たちも出席し卒園式

03/25 16:35

能登半島地震で被害を受けた石川県輪島市にある幼稚園で、市外に避難している園児たちも出席して卒園式が行われました。園児の中には避難先に近い小学校に進む子もいて、別れを惜しんでいました。

- ・我々がこれからできること

「海の星」幼稚園には教会の支援が直接ないこともあり、通常の運営や園庭や設備の保守を支援したい。
フィリピン人の女性信徒コミュニティの支援および生活支援や精神的サポート。

「輪島教会」の復興の支援

現在輪島教会は名古屋司教区の支援で再建され、2 階にはカリタス・ジャパンの支援センターが設置される
とのことでした。

以上



小さな嘘と大きな真実

村上レポート (34)

第二田園調布協議会 村上 亮子

近況報告 2025.3.16

皆様、こんにちは。今日は真冬の寒さですが、今週後半は気温が上がり桜の開花予想も
出ているようです♪

旧正月が過ぎて二学期に入ったベトナムの学校では、学年末試験や進学に向けて学びを
強化する時期です。活動では奨学金応募要項の見直しを経て、応募を受け付けています。
少し前、カマウ省のシスターが替わって初めての報告が届きました。担当の奨学生 2 名に
ついて「状況は改善」「必要な支払いもできている」等の内容を受け、支援が不要になっ
たと勘違いした私に、H 先生が慌てて返信してこられました。



… カマウのような地方の貧困層にとって「食糧やお金がある」というのは、「今日を
生き延びるお米がある」という意味です。訪れたシスターに「大丈夫」と言えたのは、彼らが他人からお米を
借りずに済んでいるからです。新しいシスターは慣れていませんので簡潔な表現になりましたが、困窮状況は
変わりませんのでどうか支援を続けてください。

言葉やメールでのやりとりの難しさだけでなく、同じ時を刻む同じ人間がどれだけ異なる環境に向き合っているか… (何年活動をして) 想像することの難しさを感じます。
活動の近況をご報告致します。

■ 皆さまの愛が心に刻まれますように...

昨年末届いた各地のシスターからのメッセージを一部ご紹介します。

… 困窮生活の間を生き抜く子供達とその家族に、皆様が灯火と希望や喜びを運んで下さっています。皆さま
のご支援や想いに心から感謝申し上げます。私はただ架け橋となり、責務を果たすのみです。皆さまのよう
な支援が更に広がり、勤勉な子供達が夢を叶えることができるよう願います。心の底から御礼を申し上げる
と共に、皆さまの愛が、成長を遂げた後の彼ら/彼女らの心にも刻まれることを祈ります。愛徳姉妹会 シ
スターLV より

… 本当にありがとうございます。子供達への愛情だけでなく、どのように思慮深く慎重に活動することがで
きるかの事例を私に示して下さいました。感謝致します。もし、遅れや漏れがありましたらお許し下さい。
愛徳姉妹会 シスターMA より

シスター達には、奨学生の生活のモニタリング(不定期)や事実確認等、細かい情報共有にご協力頂いていま
す。寄附金を有意義に使うために欠かせないと考えている作業ですが、奉仕活動以外にも忙しいシスター達に
は負担が少なくないと思像します。寄附金を受け取って終わりではない、支援対象は貧しければ誰でもという
訳にはいかない、支援が続く間は被支援者の状況を把握していなければならない… 他の寄附者からは求められ
ないことばかりでしょう。それでも、対話を通して私たちがなぜそこまで求めるかを理解頂くにつれ信頼が深ま
るように思います。

■ 支援断念に至るまで

クチ県の SOS(参照ブログ: 2024.12.7 隠れ蓑)は、話し合いの末に支援を断念しました。正解はありませ
んが、活動としてどう考え結論に至ったかを共有させて頂きます。

母親が薬物取引で逮捕され、父親 2 名は既に死亡。子供達 4-5 人が年老いた祖父母と暮らしています。別の家
で暮らすキーパーソンの叔母はフルタイム勤務で、多忙なシスターとなかなか会えず、未だどんな人物が分か

らないまま。また、祖父母が家計について真実を伝えない様子もありました。

H 先生：… 貧しく身分証明も学歴もない彼らは違法な物を売るしかかった。(中略)同じ世帯で2人死亡、1人は17年の刑期… 私は彼らは被害者だと思います。彼らの環境に麻薬が無ければ関与することもなかったでしょう。誤った認識と選択は同情に値しますし、子供達に罪はありません。母親や伯父のような刑務所暮らしにならないためには教育を受けることが大切です。

私：… 麻薬、アルコール、武器… 私たちが暮らす社会には悪い物もあり悪い人もいます。前途多難でも、多くの大人は決まりを守り、自他を害さないように踏ん張っています。(中略)この母親は逮捕を免れるために6人もの子供を出産し、法を犯し続けました。この事実について、私は本人の無責任さだけでなく、黙認し続けた周囲の大人達による「命」の軽視もあったと感じます。勿論、子供達に罪はありませんが、当活動の奨学金支援は保護者との信頼関係を前提としてきました。支援を無駄にしないための方針があり、同情で支援を決める活動ではありません。それに、保護者との信頼関係や共感の重要さは十分思い知ってきました。

シスターLV：何をもって信頼とするのか、難しいです。私は一家の生活がどうにか成り立っている現実こそが叔母の存在のおかげ(= 信頼に足る人物)と感じていました。(中略)子供達が学校に通うのを見て喜ぶ大人達の様子からは、教育への理解も感じます。月2回会って学習を確認していますが、継続して励まし、礼儀を教えていけば、子供達は自信を獲得していくと思います。そしてこれが今私達にできる最善と感じています。

生活費の収支を教えてもらえない状況は確かにありますから、支援の判断はお任せします。ただ、貧しい人々は食べるものがどうにかあればそれで幸せです。常に不安定な生活において、収支を把握していないケースは珍しくないのが現実です。

私：… 子供達がとても不運な状況にあることはよく分かりましたが、キーパーソンとの誠意あるやりとりはまだ一度もありません。私達の支援は一度始めると長期に及びますから、H 先生がキーパーソンと良好な関係を保てることは大切です。困窮していても最低限の家計認識は必要だと思いますし、それ自体が信頼の根拠にもなると考えます。

本音は、信頼するシスターLVのSOSに速やかに応じたかったです。しかし、数ヶ月経ってもキーパーソンからアプローチは無く、実は既に十分な支援があるということも考えられます。家計の状況把握も難しいまま一方的に注ぐ支援になれば、トラブルも想像に難くありません。とは言え、スタンスが違うそれぞれの考え方から学ぶことは多く、それぞれ現場との距離感や知見が違う中でも情熱を共有できていることを心強く感じています。シスターが彼らを見守る過程で、当活動の方針に合う変化があれば再考します。

■ 徴兵をどう捉えるか

高校を卒業したら Can Tho 大学(IT 専攻)を受験し、受からなければ軍に入ります。

奨学生が高校3年になると、折を見て卒後の進路を尋ね、当活動の奨学金を検討している学生には必要な助言をするようにしています。軍への入隊を視野に入れた学生の進路を聞くのは今回が初めてで、考える機会となりました。

ベトナムでは18~25歳の男性に原則2年間の兵役義務があります。高校、短大、専門学校、大学等で正規の教育を受けている間は原則免除とされています。しかし、例えば大学入学手続完了前に入隊案内が届けば入隊しなければならない、地区の裁量で大学在学中の有能な学生が呼ばれる等、その時の要員を満たすための国の事情が優先されるそうです。

H 先生：… 志望校全てに不合格となれば働き口があっても免除されませんから、兵役に行かざるを得ません。従わなければ本人も家族も捕まりますから選択肢ではありません。

私：でも、予め入隊を想定する学生に奨学金を授与するのは不適切と感じます。自分の寄附が他国の軍への貢献に繋がるのは支援者にとって想定外です… 当奨学金の目的を踏まえれば、入隊を想定していることが分かっていたら奨学金を止め、返金を求めるべきでは？

H 先生：どんな学生も徴兵は望みません。入試に失敗した結果、強制的に入隊させられるのですから、返金を求めるのは気の毒です。

私：であれば、(冒頭の)彼は第2、第3志望校の受験は考えないのでしょうか？ 私達は限られた人数しか支援できません。ある学生を選べば他の学生は希望を失いますから、2回の審査を経て意欲、責任感、計画性が十分に見られる学生を慎重に選んでいます。どうしても進学/就職するという強い志が無ければこの奨学金は不適切であると”予め”明示し、それでも結果的に徴兵されることになった場合、その年受け取った奨学金の一部返金を求めるのはフェアではないでしょうか？

H 先生：… (募集要項の改訂案を見て)とても分かり易くまとまっていて私も同意します。ただ、実際に要項に明記すると国の政策に批判的と捉えられるので危険です。

国の制度とは言え、脱貧困をめざす教育支援の末に、進学も就職もできず徴兵される状況は安易に受容できません。話し合いの結果、(上記)方針を定めた上で、ベトナム語版の募集要項に記載はせず各シスターに直接説明することにしました。特に大学奨学金は高額のため、それなりの覚悟で挑む学生を募ることを改めて周知します。もっとも、ベトナムにおける受験傾向や役人の裁量は合理性を欠くことも多いため、理不尽が過ぎる状況には柔軟に対応するつもりです。

■ もう心が授業についていけない

クチ県の Thくん(小6)から悲しい報告が届きました。

今までずっと助けてくださりありがとうございます。僕の通学だけでなく、家族が困難を乗り越えられるよう支えて下さいました。(中略)僕たち家族には色々なことが起こり、両親共に病弱で多くを僕が代わってやらなければなりません。体力が無い父を誰も雇ってくれません。時々僕も付き添って木材を運んだり、建設現場を手伝ったりしてきました…

僕は学校には通いたいです。でも僕の心がもう授業についていきません。僕の退学をお許し下さい。皆さんには本当に感謝しています。

父親は一昨年夏の夏に命拾いした後も仕事に恵まれず、遠方に稼ぎに行けるよう修道会が中古バイクを購入も、身分証明が無いことを理由に没収。シスターの奮闘もむなしく身分証明取得の交渉も行き詰まり(参照ブログ：2024.12.7 法的に存在しない人々)、一家全員が低栄養状態に陥っていました。母親は最近も脚力・視力低下で次女の送迎ができなくなり、Thも呼吸困難で学校を休む等、本当にあとどれくらいもつか心配していた矢先でした。それでも「学校に通いたい」という一文に微かな希望を抱き、その日のうちに Th とシスターに返事を出しましたが、2日後に退学確定の報告が届きました。

… Th の退学の意思を聞いて私もとても悲しかったです。そしてあなたと同じように、学校へ通いたいという彼の気持ちに希望をもちました。教育の大切さを何度も伝えながら補習に力を入れ、最近では何度も満点をとっていたんです。でも、今回は本人と家族が直接学校と話して決めてしまい、私が訪問した時には退学手続きが済んでいました。諦めていた父親の身分証明取得の可能性が再び見えてきて、うまくいけば一家の状況は打開できるかもしれませんが、Th の意思は固かったです。

できる限り寄り添ってきましたが、12歳のThの苦しみをどうにもできませんでした。稼ぎも健康も知識も無い両親との日々は空腹との闘いで、病気と障害を抱える両親に悔しさや苛立ちをぶつけたところで何にもなりません。先が見えず、生きていけるぎりぎりの施しを受ける毎日をこれ以上受け止められなくて当然です。当活動も予算に余裕が無く、食糧支援を追加継続することはできず、緊急時のつぎはぎ支援にとどまりました。幸運か更なる絶望をただ待つのではなく、自ら決断して感謝と共に奨学金辞退を申し出た彼は、本当に立派な小学生です。

今回も長文をお読み頂きありがとうございます。

世界では1億6,000万人(ILO/UNICEF, 2021年発表推計)、10人に1人の子供が児童労働をしていると言われます。即ち、義務教育を妨げられて大人と同じように働いているか、(18歳未満で)危険で有害な労働をしています。食べていけないから自分が稼いで家族を守る、というのは合理的で思いやりある行動とも言えます。しかし、同時に貧困の悪循環(教育を受けないまま大人になり低賃金で条件の悪い労働環境から抜け出せない)から抜け出す機会を逃すことも意味します。支援している奨学生全員がそのリスクと背中合わせの状況にあり、皆様のご支援が彼らを貧困の連鎖から遠ざけてくださっています。心から感謝を申し上げます。今年は暑さが更に早く訪れると聞きました。皆様、体調を整えながら春を存分に味わってお過ごしください♪

近況報告 2025.7.6

こんにちは。皆様、どうにか暑さを凌いで過ごされていますか？ 東京はまもなく早めの梅雨明けですが、この先も各地で猛暑やゲリラ雷雨の日々になりそうですね。

世界各地で人災や天災による飢饉で多くの人が命を落としています。日本では殆ど報道されませんが、現在スーダンはこの40年で最悪の人道危機と呼ばれる状況にあり、人口の半数以上が深刻な食糧不足に直面しています。連日食糧の配給を求めて酷暑の中を並び、空っぽの容器を持って帰宅する人々を想うと本当に苦しいです。活動の近況をご報告致します。

■ 2025-2026年度大学奨学金：2次審査中

1次審査を経た3名の応募生への奨学金を検討中です。今回、多くの少数民族が暮らす中部高原のKon Tum省から初めての応募がありました。

Y Thさん(18歳、Kon Tum コミュニティーカレッジ1年生、幼児教育専攻)

… 私は貧しい田舎で沢山の兄弟と共に育ち、両親は早朝から日が暮れるまで畑で働いています。生後数ヶ月

の頃からいつも両親におんぶされ、苦しく惨めな生活でした。どれだけ苦勞してもキャッサバの葉に塩や唐辛子をかけただけの食事が続き、米びつが空っぽの日も多く、私たち家族が空腹から逃れられたことはありません。中央高地から冷たい風が吹く季節になると、十分な服が無かった私はいつも震えていましたが、「食べるお米も無いのにどうやって服を買える？」と母は嘆きました。絶望しかないと考えた時、神様が救って下さいました。シスター達が来て私を Dong Nai 省へ連れて行ったのです。この幸運が無ければ他の多くの友達のように無学のままだった私は、その後高校を卒業し、今は教師を目指しています。次世代にエネルギーを託せるような先生になって、特に私の生まれ育った地域の貧しい子供達の支えになりたいです。

彼女は 8 人兄妹の 5 番目で、既に 5 人の兄弟が学校を中退して両親と働いています。高校を卒業して実家に帰り、平日は両親を手伝いながら、週末だけコミュニティカレッジ(3 年制)に通っています。学業メインの進学は叶いませでしたが、コミュニティカレッジ卒でも新卒月給はおおよそ 400 万~500 万ドン。両親合わせて月 200 万ドン程の収入で苦勞を重ねてきた Y Th にとっては夢のようです。素直で優しく、貧しさから抜け出そうと一生懸命に学ぶ彼女は、きっとこの地域の希望になることでしょう。

■ Eat first, pay later

… 直近の訪問では、G くんの家も T くんの家も現金が底をついて授業料が払えず、近々学校に退学届を出すところだったと言っていました。奨学金を渡すと安堵していました。

Ca Mau 省のシスターからの何気無い報告文ですが、正に奨学生達の日常だと改めて実感します。食料や日用品はツケ払いを認める商店もあり、無収入の月が続いてもどうにかかります。しかし授業料の支払いは待ってもらえません。食べていくお金も無い状況で子供の学費の相談や借金の検討に至る保護者は少数派で、子供達の教育の機会は簡単に閉ざされてしまうのです。

2024 年の世帯生活水準調査(統計局)によると、全国の 1 人当たり平均月収は 540 万ドン(約 2 万 9700 円)でした。ホーチミンで 750 万ドン、Dong Nai 省で 710 万ドン、農村部では 450 万ドンです(26/5/2025, Vietjo)。また、昨年末発表された貧困基準は、都市部で 1 人当たり月収 200 万ドン未満、地方で 1 人当たり月収 150 万ドン未満でした(8/12/2024, Báo Điện tử Chính Phủ)。当活動の奨学生を見ると、例えば Dong Nai 省の奨学生は 6 人家族で世帯収入 200 万ドン/月、つまり 1 人当り月収は 33 万ドン(約 1,800 円)です。同省の 1 人当り平均月収の 21 分の 1 にもなりません。

H 先生のメールに頻発する” Eat first, pay later” は正に彼らの日常を表していて、今日食べ物をお腹に入れてどうにか生き延びること以外、全ては二の次です。G くんも T くんも、皆様のご支援が無ければ学校は諦めていたでしょう。本当にありがとうございます。

■ 当活動の栄養支援

1. どん底から立ち上がるまでの緊急支援

… 気の毒な Th は真っ黒に焼けて痩せて、焦げた柱のようです。

「もう心が授業についていきません」と中退したクチ県の小学 6 年生 Th くんは、未だに職業訓練先を見つけれずにいます。近所の訓練所には空きが無く、体調の悪い母親を置いて遠方には行けない状況でした。母親は 3 月末に頭痛を訴えて倒れ、近くの保健センターで平衡感覚の障害と薬を処方されて帰宅しましたが、翌朝腕を動かせなくなっていました。地方の保健センターは検査設備が整っておらず正確な診断ができません。食事も着替えも自力でできない母親の介助と家事、妹の送迎、それに近隣住民から頼まれる用事は何でもして家族のために稼ぐうちに、Th は更に痩せ、真っ黒に日焼けしていったのです。変わり果てた彼の姿にシスターは嘆き、職業訓練の空きを探し続けています。



活動では、これまで Th の奨学金を支援して下さった支援者のお申し出を受け、修道会の配給に月 45 万ドンを上乗せする期限付の栄養支援を行っています。年末までの臨時的支援として、Th の職業訓練が軌道に乗るか父親が身分証明を手に入れる(労働者として働けるようになる)まで続けます。中退して貧困の悪循環にただ飲み込まれるのではなく、これまで受けた教育を糧に、何としても最悪な状況から立ち上がって欲しいです。と言うより、そうでなければこの一家に未来はありません。職業訓練が有料の場合には、大学/職業訓練奨学金の特例として支援を検討します。

2. 少数民族の家庭にも

ベトナムの多くの学校が 6 月から夏季休暇に入ります。親元を離れて修道会の施設で暮らす Dong Nai 省

の奨学生達もそれぞれ帰省を心待ちにしていました。Kon Tum 省にある彼女達の実家は支援対象の中で最も過酷な貧困状態にあります。部外者の出入りにリスクが伴う地域のため、帰省する学生達を通して栄養支援を届けています。今回もシスター達によって、当活動の半年分の栄養支援 480 万ドン(約 26,500 円)で調達した食糧(粉ミルク、金柑ジュース、アヴォカド、お菓子等)の袋詰めが準備されました。厳しい生活を送るご家族の栄養を少しでも補えればと願います。



この活動は教育支援に主眼を置いています。ただ、教育を受けられない程に困窮する現実を素通りすることは難しく、幸いにも支援者のご厚意に恵まれ「通学を可能にするための」栄養支援も可能な範囲で続けています。貧困の根本的解決が無い以上、教育で貧困の連鎖を断ち切る道筋を作りながら、その間は「一時しのぎ」で命を繋いでいくしかありません。深いご理解とご支援に心から感謝致します。

■ 新しい奨学生

Th くん(小)の奨学金終了に伴い、クチ県内で小学4年生のP くん(9 歳)の支援を始めました。

6 年前に母親が出て行き再婚。父親は現在受刑5 年目でこの年末に刑期を終えます。母親が出て行った後、悲しみに暮れた父親が関係を持った女性はコカイン中毒でした。ある日、喧嘩の仲直りのために薬物を入手して彼女の家に持参すると彼女は不在。代わりに現れた警察官にその場で逮捕されたそうです。その後P ちゃんと弟(小1)は祖父母と暮らしてきましたが、麻痺で寝たきりだった祖父が半年前に他界。現在は68 歳の祖母との3 人暮らしです。祖母は歩行に障害があって働けず、祖父に支給されてきた国の補助金180 万ドンも絶たれ、無収入です。2 人の叔母が月50 万ドン(約2,800 円)ずつ援助していますが、彼らの家庭も貧しく就学児童を抱えています。地域団体や近隣住民の同情による寄附が3 人の命を繋いできたと言えます。

… この一家は本当に頑張って困難を乗り越えてきました。(中略) 大黒柱が不在で、唯一の大人は持病を多く抱えた高齢の祖母です。長い間、祖父を抱えて身体を洗う等の介護をしてきたため、背骨が変形してうまく歩けません。2 人の子供達はこの祖母に育てられて今に至っています。

祖母は体調が心配ですが、誠実で責任感があり、今のところ家計管理も可能です。また、父親は刑務所から機械加工の作業場に通っており、刑期終了後も同社で働く予定とのこと。一家が薬物に一切関与しないこと、父親が出所後も働き、当面は祖母がキーパーソンを担うこと、親族のサポートが続くこと等を条件に、月60 万ドンの支援を始めました。

生活費の高騰が続く中ご支援を続けて頂き、本当にありがとうございます。

日本も気候の亜熱帯化が進めばこれまで通りの生活に無理が出てきて当然です。熱帯・亜熱帯地域では昼寝の習慣があり、ホーチミンのオフィスや路上でも、昼休憩の時間帯は皆さん横になってしっかり体を休めます。皆様もどうか油断をせず、休息・睡眠を十分に補って夏を乗り越えていきましょう♪

以上



「お知らせ」

全国理事会

第29回 ヴィンセンシアン・ファミリー 神戸大会 Vincentian Family Day

9月15日(月・祝日)10:00~15:30の予定で、神戸・舞子の愛徳姉妹会本部で開催する予定です。多くのSSVP会員の参加があらばと思います。詳細は別途連絡する予定です。



愛徳姉妹会・聖堂

編集後記：本誌の発行も少し遅れてしまいました。昨年にも増して暑い夏になりましたが、会員の皆さま方は熱中症にも罹らずお元気でお過ごしでしたでしょうか。

日本の SSVF もアジアでの同じ仲間たちとの交流する機会も多くなると思います。ただ日本では過去、余り外国との交流はなかったと思いますが、AI の時代になりそうも言っていられなくなったように感じます。しかし今の日本は日本の環境の中で独自に進めた方がいいと思います。今の会員の推移を考えてもそう思います。私の先輩はいつも“初心に戻れ”と言っていました。私の初心は大学を出てすぐに SSVF に入った頃ですから、その頃は夢中で活動をしていたように気がします。（中山）